

世界の諸言語中の中国語

(2010年8月)

column4

北陸大学孔子学院院長

王 涵

世界の国と地域は204に分かれており、総人口はおよそ64億人である。そして言語数は6,000種類以上ある。各言語の使用人口(母語としての使用者)は、次のようになっている。

母語としての話し手の数(単位：百万)

	言語	使用人口
1.	中国語	1,000
2.	英語	350
3.	スペイン語	250
4.	ヒンディ語	200
5.	アラビア語	150
6.	ベンガル語	150
7.	ロシア語	150
8.	ポルトガル語	135
9.	日本語	120
10.	ドイツ語	100
11.	フランス語	70
12.	バンジャール語	70

出所：「世界言語文化図鑑」東洋書林2002年9月第4刷

中国語は、使用人口数が約10億人ということで、世界で最も多くの人々に使われている言語である。使用人口の多さは言語の実用性にも繋がっており、世界人口の六人に一人が使っている中国語は実用性の高い言語といっても過言ではない。

世界には、一つの国あるいは地域に百以上の言語もある所も少なくない。パプア・ニューギニアでの言語は666種、インドでは567種に上る。中国には70種くらいの言語が分布している。

われわれがいわゆる「中国語」というのは、漢民族が使用している言語のことである(英語では“Chinese”)。現在使われている中国語は「現代漢語」といい、古い時代に使われていた中国語は「古代漢語」という。台湾で使われている中国語は中華民国の時代に使われていたもので、名称も昔と同じ「国語」だという。

シンガポールやマレーシアなどでは、中国語は「華語」と呼ばれている。それらの地域には、中国の福建省や広東省からやってきた華僑の人たちがたくさん住んでおり、彼らは「華人」と呼ばれている。したがって、華人の使う言葉という意味で「華語」と呼ばれているのだ。

現代中国標準語は「普通話」とも呼ばれる。中国の方言はかなり多様で複雑なので、共通語である「普通話」を学ばなければならない。外国人も、「普通話」を勉強すれば、中国のどこに行っても通用できる。